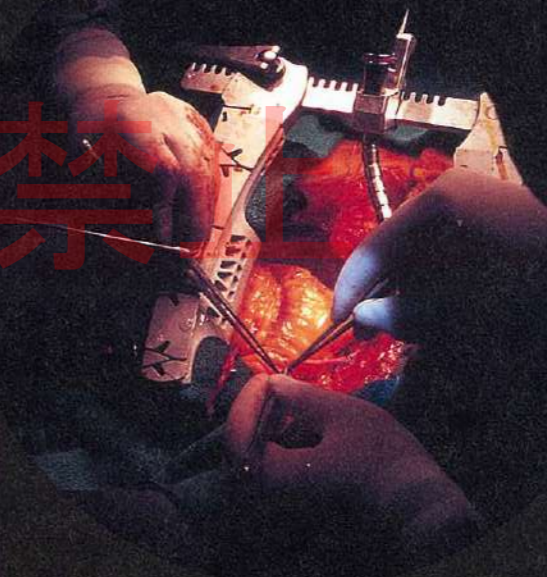


日本人の「心臓」

「医者が病気のことを何でも知っているなんて思い込むのはまったくの
あてはずれ」と断じてはばからない医者がある。学界の風雲児”ブラック
ジャック先生”の見た4000ものハートが語りかける身体と精神の真実とは？

写真/伊藤準也 Syunya Itoh 構成/登那木 順 Jun Tonaki



ビッグで筋肉隆々の心臓がよい！
まったく逆ですね。

心臓は顔と同じで各個人、違う表情を持っています。丸いものもあれば長細いものもある。表面から見ると長細いけれど、奥行きが深かったり、まさに顔と同じで十人十色。医学的に説明しろと言われても無理。医学理論は、人間の臓器はみな同じ設計図でできている」という乱暴な仮定のもとに構築されていますが、実際、人の臓器はみな違っています。事実を無視しています。老化という現象も臓器で考えると、30代の心臓と60代の心臓がどう違うのかといえば、何も違いはなく、個人個人による個性の違いのほうが圧倒的に大きい。僕は研修医時代も含め、これまで4千余りの心臓を見てきました。心臓は不思議なことだらけ。たとえば、なぜ心臓は止まらないのか？と聞かれても完璧な説明は誰もできません。また、心臓には疲労が蓄積されず、人間の筋肉のなかで唯一、筋肉痛がないのが心臓。心臓は一日、10万回もの収縮と拡張を繰り返して、収縮するときには全エネルギーを使いますが、拡張期には完全に弛緩した状態で休んでいる。拍動することに完璧にリセットしているので、疲労が残らない仕組みになっているよう

二次使用禁止

です。心臓は「宵越しの銭は持たない」江戸っ子と同じで、今もらったエネルギーを一瞬で全部使っちゃって貯金はなし。次のエネルギーが来ないと動けない。言えることは片時も休まず酸素が供給されていないと心臓は動かないということなのです。人間にとって蓄積できるエネルギーはアミノ酸や脂肪、糖質がありますが、酸素エネルギーだけは蓄積できません。この酸素エネルギーに常時、依存しているのが心臓であり人間です。心臓は大きくて筋肉隆々のほうが強いと思われがちですが、まったく逆。筋肉モリモリの心臓は負担がかかりすぎたという結果。むしろ小さくてゆっくり拍動しているに越したことはない。それだけ負担も少なく、効率的に働いているということなのです。

医者に聞いてみてください。
「あなたはどんな病気で死ぬか
知っていますか？」って。

心臓病の患者さんを診察して思うのは病気になるのはなんて理不尽なものだということ。患者さんもみな、自分で分は手術を受けなければならぬんだ。と思っただけです。手術を受ける患者さんは誰も以前から、いつか心臓病に

昨年、テレビドラマにもなった人気漫画「ブラックジャックによるしく」(佐藤秀峰著)に登場する天才外科医・北三郎のモデルになった南淵明宏氏(46)。心臓外科医として、研修医時代も含めこれまで4千余りの心臓を目にした。「ひとつとして同じ心臓はない。医者にどんな肩書があっても心臓は手術の失敗を許してくれないし、どんな手術をしたのか公平に判断する」とその印象を語る。30歳のとき大学医局というカルト組織を飛び出し、海外から戻ったのを機に、スポーツファンでもある彼は「医者の世界に野茂やイチローがいてもいいじゃないか」と「カミングアウト」。トップ・アスリートと心臓外科医との意外な関係とは？格闘する名医をインタビューした「人体ハード&ソフト学」。

なって手術を受けなければならない。なんて思う人はいないでしょう。「心筋梗塞です」と言っていると患者さんの第一声は「エーッ！」。次に「なんで心筋梗塞になっちゃったんでしょ？ きつと今まで不摂生したから……」とその原因を探ろうとします。たとえば、昨日、犬を蹴飛ばした。親から電話があつて怒って切っちゃった。だから罰が当たってしまったんだ。などと人間は理不尽なことが発生したとき「取引(とりひき)」という心理的な反応で対応しようとする。そうすることで、精神の安寧を保とうとするんですね。病院に来ると、同じような人がたくさんいるので、なかには自分より重症な人を見て納得する人もいます。う。人間が健康だと思っただけの思い込みでしかありません。病気というのは足首をたてずに忍び寄ってくるものなのです。一病息災という言葉のとおり、早い段階で病気を治療してうまくいった患者さんは、ある意味幸運かもしれません。

ところが病気をしたことがない、あるいは病気がまだ発覚していない人というのは、病気ということに対してまったく興味がないんですね。なぜか？ 人間というのは「自分だけは絶対、病気になるまい」と信じ込んでいるのが普通です。僕もそうです。「南淵先生の手術シーン

を、昔テレビのドキュメンタリー番組でやっていてまた見たんですよ。そのとき、あんな手術を受けなければならぬかわいそうな患者さんがいるんだ、などと他人事と思っていました。そうしたら、しばらくして自分が心臓病だと言われ、あのときのテレビと同じように自分が手術を受けるなんて……”という患者さんもいました。昨年は7回もドキュメンタリー番組で私の手術シーンが放映されましたから（笑）。世の中には理不尽なことが山ほどあるわけですが、最たるものが病氣です。原因も心臓と同じで千差万別。バイパス手術をする人でも、病氣に至るまでのプロセスは100人いたら100通りで、この僕だってどんな病氣で死ぬかなんてまったくわからない。心臓病で死ぬかもしれない。あるいは脳出血で死ぬかもしれないし、ガンで死ぬかもしれない。医者が何でも知っているなんて思い込むのはまったくあてはずれ。これだけは、理解してほしいですね。医者に聞いてみてください。医者は普通、長生き死ぬか知っているんでしょうか？”って。仏教の教えに「四諦・八正道（したい・ほつしようどう）」というのがあります。簡単に言えば、四つの悟りと八つの正しい行ないのこと。四諦とは「苦諦（くた



根性論にも
合理性があるのかもしれないし、現在の理論もいつ「あれはマチガイ！」という話になるかもしれません。

科学を知らない人は科学が万能だと考えたり知識を与えてくれるものだと思っ
ていますが、科学とは、じつは人間は何も知らないということ教えてくれる学問ではないでしょうか。科学で何か一つのナゾを解き明かせば10の疑問が出てくる。野球のアイシングにしても、僕が子供のころは野球のピッチャーは肩を冷やしてはいけないと言われていた。「巨人の星」では金やんこと金田正二投手が肩あて（肩を冷やさないための器具）をどんな暑い日でもはずさなかったという話が出てきたと思います。しかし、今は逆に、投げ終わった後すぐに冷やすでしょう。大学のときの先輩が中学時代、大阪大会で優勝して将来を期待されていたのに、肩を壊

二次使用禁止

い、集諦（じつたい）、滅諦（めつたい）、道諦（どうたい）」の四つの境地を言います。苦諦とは人生の苦しみを悟ること。集諦とは苦しみの原因を探り悟ること。滅諦とは苦しみから逃れるためにはすべてを捨て去るということを知ることに。最後の道諦とはこれを実践するために八つの正しい道、八正道（はつだう）があるということ。苦諦のくだりに出てくる言葉が「四苦八苦」。四苦とは「生、老、病、死」。世の中には病氣という苦しみが必ず存在するということをみなさん無視しがちです。苦しみを知ることに関して、瀬戸内寂聴さんの本を読んだのですが、お釈迦様の逸話があります。生まれたばかりの子供を亡くした母親がいた。母親は子供が死んだという事実を受け入れられず、身体が腐敗した子供を抱いたまま街中を彷徨っていた。見かねた人たちが「お釈迦さんという偉い人がいるからそこへ行つて相談してごらん」と助言した。母親はお釈迦様を訪ね「死んだ子供を生き返らせてください」と懇願すると、お釈迦様は「よし、わかった、簡単だよ。街へ戻つて五軒の家から花の種をもらつてきなさい。それをすり潰して子供にかけてと生き返る。ただし、誰も死んだことがない家でなければなりません」と諭すわけですよ。母親は喜びいさんで街に戻り、

した。原因は肩を冷やしたからだと思ひ込んでいた。「あのとき、肩あてをはずさなかったら僕は今ごろプロ野球のマウンドに立っていたんです」なんて自分の過去を振り返っていた奴です。今、アイシングがあるということを知って、あいつはいいのか（笑）。
筋肉疲労によって、筋肉細胞や組織の間が浮腫になって腫れてきて毛細血管がピンと引き伸ばされて切れてしまい出血が起こってしまいます。出血すればいいんなら大工事が各所で始まり、結果、筋力は低下する。そうであるなら、アイシングで腫れが起らないようにする方法は正論かもしれません。でも、いつまた「あれはマチガイ！」という話になるかもしれない。昔は根性論的に「水を飲まない。なんて理にかなっていないこと」を平気で言っていた（笑）。今の世代の人たちは理にかなわずして、その「理」がひょっとしたら「やつぱり嘘」なんてことになって、いつか反動がくるのではという懸念がありますね。理屈では理解できるが、本当にアイシング効果があるかと問えば疑問点も多いのではないかと。まあ、根性論的に言えば大リーガーでも隻腕のアポット投手とか、利き腕が横紋筋肉腫になったピッチャーがいました。

筋肉腫になったピッチャーがいました。

一軒めの家を訪ね「この子を生き返らせ
るために種をください」と言うとお安
ご用だ。いつでもあげよう」と返事が返
ってきた。「でも、条件があるのです。
あなたの家では誰も死んでいませんか？」
と母親が尋ねると「そんなことはありません。
昨年、兄が死にました」、次の家
では「母が先月亡くなりました」、その
次の家では「私も子供を亡くした経験が
あります」と平気で答える。ついに母親
はみんな肉親や愛する人を失つた経験が
あるということを知り、子供の死を受容
する。だいたいこんな話だったと思いま
す。それを病氣に当てはめることもでき
ます。人間というのは病氣になります。
一日2キロ欠かさず歩いて、ものすごく
健康に氣を使っている人でも病氣になる。
人間の人生とは本当に理不尽なものな
です。



TBS系「ブラッパジャック」によろしく、で北三郎役の原田芳雄に、心臓への電気ショックの方法を指導する南園医師（本人撮影）

筋肉の半分を失ったのにリハビリして再
びマウンドに立った。すごいことです。
生きていられるということの証しとして、ど
うせ死ぬのならもう一度、マウンドに立
ちたい。そういう根性論というのは理
屈を超えていると思います。日本でも荒
木大輔投手をはじめ「奇跡のカムバック」
譚がありますよね。特に今の時代、精神
力が免疫力が高まるとか、根性論にも光
が当たりだしている状況だと思えます。

要するに根性論にも合理性があるのか
もしれないし、科学を妄信するのも危な
いかもありません。マラソンの高地トレ
ーニングにしても平地と比較して気圧、
温度、気候などさまざまな問題が出てく
る。たとえば高地と平地で気温が同じ18
℃であっても、体感温度というのは1千
メートルと0メートルではまったく違う
わけです。身体に負荷をかければ必ずト
レーニングになるという「大リーグボー
ル養成ギプス」的発想ですね。あれにし
たつて筋肉には赤筋と白筋というのがあ
つて、赤筋は収縮速度が遅いので、疲れ
にくく力を長時間保持できるので持続的
なスポーツに向く。一方、白筋は収縮速
度が速いので瞬発力で勝負するスポー
ツに向く。つまりマラソン選手は赤筋が多
くあり、短距離選手は白筋が多くあるら
しい。大リーグボール養成ギプスは瞬発

力を抑制しているわけです。人間にとっ
てリラクセスも重要なファクターです。
医学の世界で言えば、ガンの患者さん
に対して行なう抗ガン剤や放射線治療は逆
に身体を痛めつけて免疫力を弱め、百害
あって一利なし、リラクセスするのが
いちばん効果的と唱える医者もいます。

トップ・アスリートの条件は

弱点の分析とバーサス(自己闘争)。

外科医も同じですよ。

最近、日本人の野球選手が大リーグに
行く機会が多くなりました。日本人初の
村上雅則投手の時代と野茂英雄投手では
隔世の感がありますね。一方は会社に保
証され、勉強に行ってこい、と2年間教
育リーグに行き、そこで実力が認められ
大リーグ行きのキップを手にした。でも
期限切れで帰国。一方は、会社なんか知
るものか、と日本を飛び出した。二人を
見比べて世代の違いというか、日本人も
変わったと思います。サッカーの中田英
寿選手にしても、同じイタリアに行った
三浦知良選手とはまったく違うよう
うに思います。ところで、トップ・アス
リートと呼ばれる選手たちについて思う
のは、彼らは自分をどう評価し、自分の
力量を客観的に見て、どう分析している

のか? たえば現在、社会問題になっ
ている大病院でのとんでもない手術。

誰が見ても下手だから、こいつ手術は
やめたほうがいい、という医者に限って
自分は上手いと思っている。そんなでた
らめな状況にあるのが日本の医療だと思
うのですが、トップ・アスリートに限っ
たことではなく、何にでも重要なのは「自
分を知る」ということに尽きると思いま
す。中田選手は自分の実力をどう分析し
ているのでしょうか。最終的な結果だ
けで判断するのか。そんな単純なものじ
やなくて、ほかに分析する要素はあるん
でしょうね。たとえば、自分の弱点を分
析し弱点を持ち込まない方法論を構築し
ているはず。スポーツというのは必ずばり
言って自己との「バーサス(闘い)」であ
るし、技術論なんでものは百人百様。す
べて自分の中の宇宙の法則みたいなもの
じゃないですか。そういう意味では外科
手術とまったく同じ。外科手術も技術論
からするとじつは外科医それぞれでバラ
バラ。ほかの医者と話していて全然、話
がかみ合わない。スポーツでも同じこと
が言えるのではないですか。トップ・
アスリート同士は話を通じないと思いま
すよ。個々の、その人の「宇宙」で技術
論が成り立っている。これは外科医にも
言えることです。



南淵明宏 (なぶち・あきひろ)

58年生まれ。奈良県立医大卒。国立循環器病センターレジデント、シドニー・セントビンセント病
院フェロー、国立シンガポール大学、新東京病院などを経て、96年、大和成和病院(神奈川県大和
市)に心臓外科を開設。現在、同病院心臓病センター長、外科部長。医学博士。心拍動下冠動脈バ
イパス手術(オフ・ポンプ手術)の第一人者として年間200例、累計2千例の執刀に当たる。また、
医療問題などさまざまなメディアを通して積極的に発言している。主な著書に「ブラック・ジャック
はどこにいる?」(PHP研究所)、「ブラック・ジャック解体新書」(宝島社)、「心臓は語る」(PHP新
書)、「突然死 あなたは大丈夫?」(日本経済新聞社)などがある。